令和８年度　福岡県学力調査結果の概要

福津市教育委員会

本調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上のため、小学５年生の児童と中学１年生・２年生の生徒を対象として福岡県が実施したものです。小学５年生・中学１年生は、国語、算数・数学の２教科で、中学２年生は、国語、数学、英語の３教科で実施し、福津市では、小学５年生は令和８年５月１８日に、中学１年生は令和８年５月２１日に、中学２年生は令和８年５月２２日に実施いたしました。

今年度も実施したすべての教科において、タブレット端末等の一人一台端末を使用して行い（CBT：Computer Based Testing）、IRT 追跡型学力・学習状況調査として実施しています。

本調査結果は、福岡県から、８月２５日に各学校に、９月１８日に市町村教育委員会に提供されました。このたび、「令和８年度全国学力・学習状況調査及び福岡県学力調査結果公表方針」に基づき、調査結果の概要を公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面にすぎません。本調査の結果が、本市の教育活動全てを評価するものではないことにご留意ください。

令和８年度　福岡県学力調査結果

１　福岡県学力調査について

本学力調査は、小学５年生・中学１年生は国語、算数・数学、中学２年生は国語、数学、英語について行いました。出題範囲は調査対象学年の前学年までの指導事項（中学校１年生においては小学校までの指導事項）とし、出題内容はそれぞれの学年・教科に関し、主として「知識・技能」に関する問題及び主として「思考・判断・表現」に関する問題を一体的に問う問題として構成されています。

また、今年度も実施したすべての教科において、タブレット端末等の一人一台端末を使用して行い（CBT：Computer Based Testing）、IRT 追跡型学力・学習状況調査として実施しています。

IRT 追跡型学力・学習状況調査とは、以下のような学力調査です。（※IRT：Item Response Theory　項目反応理論）

- ○　一つ一つの問題について難易度が設定されています。
- ○　様々な難易度の問題を出題し、それに対する正答や誤答の状況を見ることで学力を診断します。
- ○　同じ児童生徒の学力の変化（伸び）を、経年で把握することができます。

学力調査を CBT で行うメリットとしては、以下のようなことが挙げられます。

- ○　動画を活用した問題など、実際の学習場面に即した問題が出題できます。
- ○　正誤の状況や、問題ごとの解答時間も記録・分析することができます。

２　教科区分ごとの標準化得点

※　標準化得点･･･福岡県の平均正答数を 100 としたときの本市の平均得点

（１）小学校　５年生

	国語	国語 知識・技能	国語 思考･判断･表現	算数	算数 知識・技能	算数 思考･判断･表現
福津市	**107.4**	**106.2**	**110.4**	**109.3**	**107.5**	**111.5**
福岡県	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

（２）中学校　１年生

	国語	国語 知識・技能	国語 思考･判断･表現	数学	数学 知識・技能	数学 思考･判断･表現
福津市	**107.2**	**104.4**	**110.9**	**110.7**	**111.2**	**110.1**
福岡県	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

（3）**中学校　2年生**

	国語	国語 知識・技能	国語 思考・判断・表現	数学	数学 知識・技能	数学 思考・判断・表現	英語	英語 知識・技能	英語 思考・判断・表現
福津市	**106.0**	**104.9**	**107.7**	**104.5**	**103.9**	**105.3**	**108.5**	**109.1**	**107.2**
福岡県	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

なお、表内の数値は、各教科区分における本市の標準化得点を示していますが、これらの数値は、あくまでも学力の特定の一部分であり、本市の教育活動全てを評価するものではありません。

3　調査結果を受けて

本市の中学1年生の数学において、福岡県の平均を上回っています。小学5年生の国語、算数、中学1年生の国語、中学2年生の国語、英語については、福岡県の平均をやや上回っています。中学2年生の数学については、福岡県の平均とほぼ同じ結果となっています。

「知識・技能」においては、中学1年生の数学において福岡県の平均を上回っています。小学5年生の国語、算数、中学2年生の英語において、福岡県の平均をやや上回っています。中学1年生の国語、中学2年生の国語、数学においては、福岡県の平均とほぼ同じ結果となっています。

また、「思考・判断・表現」においては、小学5年生の国語、算数、中学1年生の国語、数学において福岡県の平均を上回っています。中学2年生の国語、数学、英語においては、福岡県の平均をやや上回る結果となっています。

以上の結果につきましては、全ての学年・教科で福岡県の平均と同程度以上となっており、特に「思考・判断・表現」では全ての学年・教科で福岡県の平均を上回っています。各学校の学力向上に関する取組によって、一定の成果が出ていると考えられます。

一方で、教科や分野によっては定着に課題が見られるものもありました。小学5年生の算数では、割合を用いて考える問題や、考え方を説明する記述式の問題の正答率が低くなっています。小学5年生の国語では、説明的な文章の内容を読み取ったり、読み取ったことを基に自分の考えをまとめたりする問題で、無解答の割合が高くなっています。中学2年生の数学では、文字式の計算や等式の性質など、基礎的な計算に関する問題で福岡県の平均を下回るものがありました。中学2年生の英語では、「書くこと」「話すこと」の正答率が低く、まとまりのある英文を書く問題では無解答の割合が高くなっています。

また、中学2年生については、令和7年度（中学1年生時）からの同じ集団における学力の伸びが、国語、数学ともに福岡県の平均と同程度となっています。

４　今後の学力向上に向けた取組

以上の結果を踏まえ、本市では、次のような取組を進めてまいります。

（１）自分の考えを表現する力の育成

記述式や短答式の問題で正答率が低い、または無解答の割合が高い傾向が見られることから、各教科の授業において、条件に合わせて自分の考えを書く活動や、学習の振り返りを自分の言葉でまとめる活動を、意図的・計画的に位置付けます。

（２）基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着

算数・数学の割合や文字式の計算など、課題の見られた内容について、単元の学習後も繰り返し学習する機会を設けるとともに、一人一台端末の学習ドリル等を活用し、一人一人のつまずきに応じた学習を充実させます。

（３）英語の「書くこと」「話すこと」の指導の充実

授業の中で、即興的にやり取りする活動や、まとまりのある英文を書く活動を継続的に行い、学んだ表現を使って自分の考えや気持ちを伝える力を高めます。

（４）調査結果の分析と効果的な指導方法の共有

各学校において、問題ごとの正答率や無解答率、学力の伸び等の詳細な分析を行い、授業改善につなげます。また、市内の学校において効果的な指導方法を共有しながら、学力向上の組織的な取組を一層推進します。

さらに、保護者会等の機会をとらえて、調査結果や改善策等について説明するとともに、ご家庭への協力をお願いしてまいります。

そして何より、子どもたちが自分自身の現在の学力や学習の状況だけでなく、自分の成長を自覚し自信を深めていくことを大切にした教育を推進してまいります。